

令和7年度 学校経営計画・学校評価シート

高知ろう学校

《高知県の教育の基本理念》	(1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	学校像	○充実したコミュニケーション活動を通し、主体的に生きる力を育成する学校 ★幼児児童生徒の自己実現を可能にする学校 ★保護者と連携・協力・協働できる学校 ★地域に貢献できる存在感のある学校 ★教職員一人一人がやりがいを感じ、力を広げることができる学校	目指すべき姿の概要に	○主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善 ・ICTの効果的な活用と評価票を活用した授業改善 ・聴覚障害教育の専門性の向上 ○よりよく生きる力を育成するカリキュラムマネジメント ・教科等横断的な取組の充実 ・文化・芸術・スポーツ活動の推進 ・地域貢献 ○高知ろう学校の魅力発信 ・交流及び共同学習の充実 ・安全で安心な学校づくりの推進 ○働き方改革 ・コミュニケーション・共有・協働を図る ・ウェルビーイングの実現 ○不祥事防止に向けた取組 ・自己管理能力の向上 ・不祥事防止月間の実施
《取組の方向性》	《4つの基本方針》 ①「高知家」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②「高知家」の子どもが誰一人取り残さず、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③「高知家」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④「学校における働き方改革」、「チーム学校の推進・強化」、「教員等の人材確保に向けた取組」の一体的推進	児童生徒像	○主体的に学び、表現し、社会とつながる幼児児童生徒 ★「ことば豊かに」 可能な手段を活用し社会とかわかっていることができる ★「こころ豊かに」 物事を多面的・多角的に考え社会とかわかっていることができる ★「たくましく」 自己肯定感をもち、積極的に社会とかわかっていることができる		

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P-D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
教育専門性内容の充実・主体的・対話的授業改善	・ICTの効果的な活用と評価票を活用した授業改善 ・聴覚障害教育の専門性の向上	○現状 ・個別の指導計画へのICT活用についての記載は100%である。高知ろう学校授業のスタンダード票(以下スタンダード票)で教職員の『子供の実態・課題にあったICTの活用ができて』の評価は77%であった。 ・聴覚障害教育の専門性は、聴覚、手話の研修で基礎的な知識・技術は得られている。 ○目標 ・全教員の公開授業で授業改善を目指す。 ・『子供の実態・課題にあったICTの活用ができて』の評価について77%→85%以上を目指す。 ・新任研修6回、聴覚障害の専門性研修4回、手話研修7回、校内手話検定2回を実施する。	①近隣の特別支援学校3校との授業参観交流で教科指導力を向上させる。 ②一人1回の公開授業を実施し、評価票で振り返りを行う。また、学期に1回、スタンダード票で自身の達成度を評価する。 ③児童生徒の実態に応じてICT機器を活用した家庭学習を行う。 ④OJTの活用や外部講師を招聘して、新任研修、聴覚障害の専門性研修、手話研修、校内手話検定を実施する。	①本校から他校への参観希望、本校への参観者は調整中。 ②公開授業を行った教員には、全員評価を返している。公開授業は12月まで継続中。 ③ICT活用については、年度初めの個別的教育指導計画には全員活用予定が記載されている。また家庭学習での振り返りや習熟のためのまとめ学習、調べ学習、長期病気療養中の児童に行っているリモート学習などで活用されている。 ④新任者研修5回、校内専門性向上研修を8回実施済。(聴覚3回、手話5回) 外部講師を招いての研修は5回実施済。	②公開授業の実施と評価の継続。 ③ICT活用については、継続中。 ④校内手話検定に向けて自己研修を行う。 校内専門性向上研修は継続中。	①近隣の特別支援学校3校との授業参観交流は、残念ながら交流できなかった。 ②公開授業の実施と評価を継続して行った。 ③ICT活用について、教員93%が活用していると回答、保護者アンケートでも93%の方が活用していると感じている。 ④四国地区聾学校分野別研究大会(中学部会)の主催、他県で開催の早期教育・小学部・高等部・寄宿舎教育や全日本聾教育研究大会に参加、授業力向上を目指し、公開授業の実施と評価、校内専門性向上研修、校内手話検定の実施を継続して行った。	①特別支援学校3校との授業参観交流について、初任者がいない時は、現状に比べて流動的な対応ではないのか。継続的に専門性の向上に努め、個々の子どもにも手厚い教育がなされている。若草本校とは、医ケアの側面で見れば交流しているのを感じる。教員不足に加え専門性をもった教員も不足していると思う。適切は人員配置や人材育成は、学校単独では限界があるので教育委員会などと連携をとって解決を目指してほしい。 ③ICTは、年次的に整備されてきて、個別の指導計画にも盛り込まれ実践している。家庭学習にもオンライン学習が活用されるなど、効果的に活用できている。病気療養中で不安だったが、リモートをつないで授業をしたことで安心して病院で過ごせた。	○引き続き、ICTの効果的な活用と評価票を活用した授業改善、聴覚障害教育の専門性の向上を推進していく。 ○障害特性に応じた指導・支援を充実させていく。
キャリア教育の充実	・教科等横断的な取組の充実 ・文化・芸術・スポーツ活動の推進 ・地域貢献	○現状 ・校内実践において各学部、言葉に重点を置いた教科等横断的な取組がなされている。 ・芸術鑑賞会を通して地域と交流を深めることができた。 地域の清掃活動は天候に左右され計画通りに実施できなかった。 ○目標 ・懇話等を活用して、キャリアパスポートを保護者と確認しキャリア教育の理解を深める。 ・先輩との交流を通して、自己肯定感や将来への夢を持つ。 ・11月の学習発表会や清掃活動等を通して地域交流を行い、聴覚障害についての理解啓発を図る。	①キャリア教育の取組をキャリアパスポートにまとめさせ、発表したり共有したりして効果的に活用する。 ②地域の方を招待し、学習発表会や物作りを通して交流会を実施する。 ③東京2025デフリンピックの動画等を情報モニターで流し、児童生徒の興味関心を高める。また、デフアスリート(聴覚障害者国際大会第1回コースデフリンピックメダリスト)等とスポーツを通して交流する。 ④地域の商店街の清掃活動や子ども食堂の食品ロス活動に協力する。	①キャリアパスポートは、各学部にて年度始めの目標設定、1学期の振り返りを行っている。中学部重複障害の生徒は、職業見学などを高知みかづき分校、マドナルド万々店にて行った。 7月中旬に就業体験学習を行い、進路について検討。進路相談会を7月下旬に行った。9月に就労アセスメントを実施(高2 2名)。寄宿舎 自活訓練1回目終了(高3 1名)。2回目は10月の予定。 ②東京2025デフリンピックについて、職員室前情報モニターで動画を流した他、キャリアバンカーが来校し交流、理解を促し興味、関心を高めた。デフリンピック選手2名がサマースクール小学生の部「かひっこ教室」の講師となり交流を行った。 ④地域の商店街の清掃活動は継続中。	②小学部が10月上旬に、非常時用ガス設備を使って保護者・地域の方と一緒に炊き出し体験をする予定。 ③学習発表会は地域の方を招いて実施予定。地域交流会は、マジックショー開催予定。 ④東京2025デフリンピックは、全校でパブリックビューイングの予定。 ④子ども食堂の食品ロス活動は、保護者に学習発表会参加時に余剰品持参を呼びかける予定。	①キャリアパスポートは年間を通じて活用。 7月・2月に就業体験学習を行い(中2・高2)進路について検討。進路相談会を7月下旬に行った。9月に就労アセスメントを実施(高2 2名)。 ②学習発表会・地域交流会は、保護者等28名、地域の方14名計42名が来校、学習の成果を発揮したり、マジックショーを楽しんだりした。 ③小学部炊き出し体験では、保護者11名、地域の方5名来校し、SDGs活動として家庭の食材を持ち寄り炊き出し体験をした他、非常食の話や高知市防災倉庫見学を行い、充実した時間を過ごすことができた。 ④東京2025デフリンピックは、全校でパブリックビューイングを行い、卒業生の応援を体験することができた。 ④食品ロス活動は、学習発表会にて保護者等の方からお米3キロを合わせたくさんの余剰品を持参していただき、地域の子ども食堂に寄付することができた。 昨年に引き続き、万々商店街の挨拶、清掃活動を3回取り組んだ。	①キャリアパスポートで目標設定し、就業体験や進路相談など、きめ細かい取組ができていると思う。就業体験や自活訓練、就労検討、進路相談、アセスメントに取り組み、子ども達が希望をもてる訓練や努力をしている。マドナルドで職業体験をさせてもらった。憧れの職場でお仕事体験ができ生き生きしていた。 重複障害児の職業体験も広げていってほしい。 ②防災学習では、子ども達が関心をもって、自らが考える主体的学習がなされている。防災、食品ロスの取組と、新しいアプローチをしている。 ③デフリンピック選手による「かひっこ教室」や全国大会へ出場する生徒の壮行式が将来の夢や目標につながる機会になったと思う。 ④食品ロス活動は、地域にも呼びかけてほしい。	○重複障害児の職業体験を含め、一層キャリア教育の推進をしていく。 ○更に地域貢献を進め、地域の方に呼びかけての食品ロス活動、地域清掃活動を一緒に行うなど、ともにできる活動を考えていく。
聴覚障害教育のセンター的機能の充実	・交流及び共同学習の充実 ・安全で安心な学校づくりの推進	○現状 ・居住地校交流は、幼稚園から中学部まで73%で実施できている。交流できていない児童生徒に関しては、地域校交流等でインクルーシブ教育の推進に努めている。 ・あらゆる災害等を想定した避難訓練が実施できている。引き渡し訓練の実施を計画している。 ○目標 ・県内の聴覚障害のある子どもや保護者への支援を充実させる。(教育相談、体験入学(随時)、サマースクール等の実施) ・関係者が連携協力し医療ケア児が安心安全に学校生活を送れるようサポートできる。(マニュアルの点検、コードブルー訓練1回、避難訓練3回)	①教育相談やサポート事業等の充実を図る。 ②障害者国際大会第1回コースデフリンピックメダリストを育てた保護者を学習会の講師として招聘し子育てについての学習会を開催する。また、選手と児童生徒の交流も計画する。 ③体験入学(随時)やサマースクール(8月)で聴覚に障害のある子供たちや保護者の交流の場を設定する。 ④居住地校交流や地域校交流を継続して行う。地域校とは、合同で修学旅行を実施する(小6)。 ⑤看護職員を中心とした医ケアの緊急時対応マニュアルの見直しと周知を行う。全校一斉の避難訓練、防犯訓練に加え、医ケア児、単独移動が困難な児童等への緊急時対応訓練を実施する。	①サポート事業は、2校2回、教育相談員派遣等は10回実施。 ②サマースクール参加者は幼小21名、保護者等22名で、交流、研修を行った。保護者研修会は、デフリンピック選手の保護者から子育てについて学ぶ。 ④5月に併置校との交流1回実施。 6月に四国地区聾学校中高等学校とのオンライン交流を実施。 ⑤巡回看護師、看護師、介助員と共に緊急時連絡・搬送訓練(コードブルー)を実施し見直しを行う。 A 高知警察署から3名を招いて不審者対応訓練を実施し、対策の検討。 養護教諭が、9月に肢体不自由特別支援学校(土佐希望の家)の災害避難訓練を見学。 水泳緊急時・異物混入時マニュアルの作成と保護者・教職員への周知。災害対策・危機管理(熱中症含む)マニュアル、学校再開・避難確保計画の見直しを実施、教職員に周知。	①サポート事業等は継続中。相談学級は月1回2名程度継続中。 ④年間計画に沿って幼小中・高の居住地校及び地域校、四国地区聾学校交流継続中。 ⑤地震避難・シェイクアウト訓練、災害時引き渡し訓練を1回ずつ実施。今後も避難訓練を継続。 寄宿舎では、地震避難訓練1回目終了。避難訓練は後2回予定されている。	①サポート事業は9校20回、教育相談員派遣等は3回実施。相談学級は月2回 2名 16回実施。 ②サマースクールは幼小21名、保護者等22名で、交流、研修を行った。保護者研修会は、デフリンピック選手の保護者から子育てについて学んだ。 ④年間計画に沿って幼小中・高の居住地校(80%の子どもが実施)及び地域校、高知市内の特別支援学校、四国地区聾学校交流に取り組みすることができた。 ⑤地震避難・シェイクアウト訓練、Jアラート訓練、災害時引き渡し訓練をそれぞれ1回ずつ実施。その他、みかづき分校合同地震火災避難訓練を1回実施。 寄宿舎では、地震避難訓練を2回、火災避難、Jアラート訓練は学校の訓練に参加、その他寄宿舎だけの火災避難訓練を1回実施。 学校、保護者、地域合同の防災学習会を実施。教員等35名、保護者2名、地域の方21名が参加。 医療的ケア児の給食注入に備え、若草本校視察を養護教諭、看護師2名が行い研修した。また、停電時に活用する足踏み式吸引器実技訓練を人形を使用した。	①教育相談の派遣やサマースクール、他校との交流を通してセンターの役割を果たしていると思う。教員の手話資格の取組も、センターの機能の充実にも寄与している。積極的にHP、すぐるを活用し、タイムリーに保護者に子ども、学校の様子など情報提供をしている。すぐるの「タイムライン」では、日々の生徒さんの生活ぶりが伝わってくる。 運動会では、(肢体不自由の)本人の力でできる工夫をしていることがすごいと思った。(家庭の)SNSで発信したら、2日で2万のコメントがきて、沢山の人の共感してもらった。高知ろう学校にしていることは、いいことをしているんだと改めて思った。個人情報を守る手続きが煩雑になっている。名前と顔が一致しない形で簡単にし、情報発信に努めたい。 ⑤備蓄品について、学校からの声かけで毎長期休みごとに備蓄品の確認ができるのはありがたい。防災学習会は、地域の避難所運営を見直すきっかけとなった。特別支援学校から学ぶことの重要性や交流の意義を感じた。引き渡し訓練について、保護者が来れない時にどうするかが課題だと思った。一定期間、高知ろう学校で避難生活をするのを考えておいたらどうか。そうすることで、学校再開も早まるのではないのか。 最新の津波のハザードマップでは、高知ろう学校は浸水地区からはずれている。ここは沼地だったので、液状化の問題が深刻である。新しい対策を考えたことが必要である。	○来年年度もデフリンピック選手との交流をもつことで、障害者も自分自身でできること、自信をもって生きることができると知り、自己肯定感を高めていく。 ○安全で安心な学校づくりを推進するために、防災に強い学校づくりと防災意識を高めていく。 ○居住地校や地域校、特別支援学校、聾学校との交流を充実させていく。 ○校外に向けての情報発信を活発にしている。
働き方改革	・コミュニケーション・共有・協働を図る ・ウェルビーイングの実現	○現状 ・水曜日の会議を入れない日は、通院や介護休暇等を入れている教職員が多く時間を有効に活用していると思われる。グループウェアの活用は、定着してきているが、見ていない職員もいることがあり、口頭での周知も必要である。 ○目標 ・心身のバランスや勤務時間の管理ができる。(長時間勤務者0人)	①夏季休業中の閉庁日を設ける。 ②水曜日を定時退校、会議等を入れない日と設定し、時間に余裕を持たせ心身の健康やコミュニケーションの充実につなげる。 ③グループウェアで連絡やアンケートの集計等を行い、会議の精選や提出書類作成の時間短縮につなげる。	①夏季休業中8月12日～15日を閉庁日とした。 ③グループウェアで連絡やアンケートの集計等を行い、会議の精選や書類作成の時間短縮につなげる活動が進んでいる。継続して行う。 B ・共働きサポート調査を行い、必要に応じて面談を実施。また支援内容についてデータや冊子を配布。 ・学部によって、業務の負担が生じている。	②水曜日を定時退校、会議等を入れない日とすることを継続中。水曜日を実施できない日は、曜日を代入替えて実施。 ・共働き、介護サポートなど、働き方に関する情報は、事情の変化に応じて適宜対応。	①夏季休業中8月12日～15日を閉庁日とした。 ②水曜日の定時退校実施。 ③グループウェアを活用して連絡等を行った。 5月、10月の2回、長時間勤務者を出してしまっ。健康や長時間勤務の確認を行うとともに、勤務時間改善に向けての話し合いを行った。 B 共有で面談を希望に応じて実施。また「子どもが生まれる予定の情報を得たとき」の案件に対応した。	②先生の仕事の量が減っていないから、持ち帰りにしているケースもある。先生がどんな仕事をしているか調べて、仕事内容を精査してはかないと仕事量は減らないと思う。 先生方がAIを使ったら、業務が減るのではないのか。	○日課表の見直しや地域の協力を得られる場面を検討するなど、校内外でできる取組を進めていく。 ○共働き、介護サポートなど、働き方に関することについて、事情の変化に応じて適宜対応していく。
不祥事防止に向けた	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 ・面談での全員の意見交換で、自身の自覚が大切であるとの意見が大半である。 ○目標 ・不祥事防止に向けてお互い声を掛け合うことができる。(校内での不祥事発生0件) ・不祥事防止委員会を通して各学部の情報共有ができる。	①校内研修を2回(4月、8月)に実施する。 ②不祥事防止月間(6月、1月)を参観週間のある月に設定する。 ③管理職による校内巡視、不祥事防止委員による声掛けで不祥事発生等の防止を図る。 ④個人面談時において意見聴取や法令遵守の意識を高める。	①不祥事防止対策研修会を実施し、 ②不祥事防止月間1回の実施。 ③個人面談時において意見聴取や法令遵守の意識を高めた。 A	①不祥事防止月間2回の実施 ②不祥事防止月間(6月、1月)の実施。 ③管理職による校内巡視、不祥事防止委員による声掛けを引き続き継続中。 ④2回目個人面談の実施。	①校内研修を2回(4月、8月)の実施。 ②不祥事防止月間(6月、1月)の実施。 ③不祥事防止対策として、10月職員会にて注意喚起、各部署にて必要に応じて話し合いなどの実施。 校内巡視、不祥事防止委員会を適宜実施。12月に今城教育長のメッセージ動画を全教職員が視聴。 ④必要に応じて個人面談を実施。早期の問題解決に向けて対応した。	④仕事を覚えることに加えて子どもの実態から教材を作るところに、大変さやストレスがなかったのではなかったか。性的な犯罪を起こした人を教育会に入れないシステムがない。日本は遅れているので必要に応じて話し合いなどの実施。 ○マルチリポートを根絶し、不祥事を防止していく。	○今年度は、本校の不祥事発生はなかったが、引き続き不祥事防止研修、組織的な対話の充実による安心・安全な職場文化の構築に努める。 ○マルチリポートを根絶し、不祥事を防止していく。